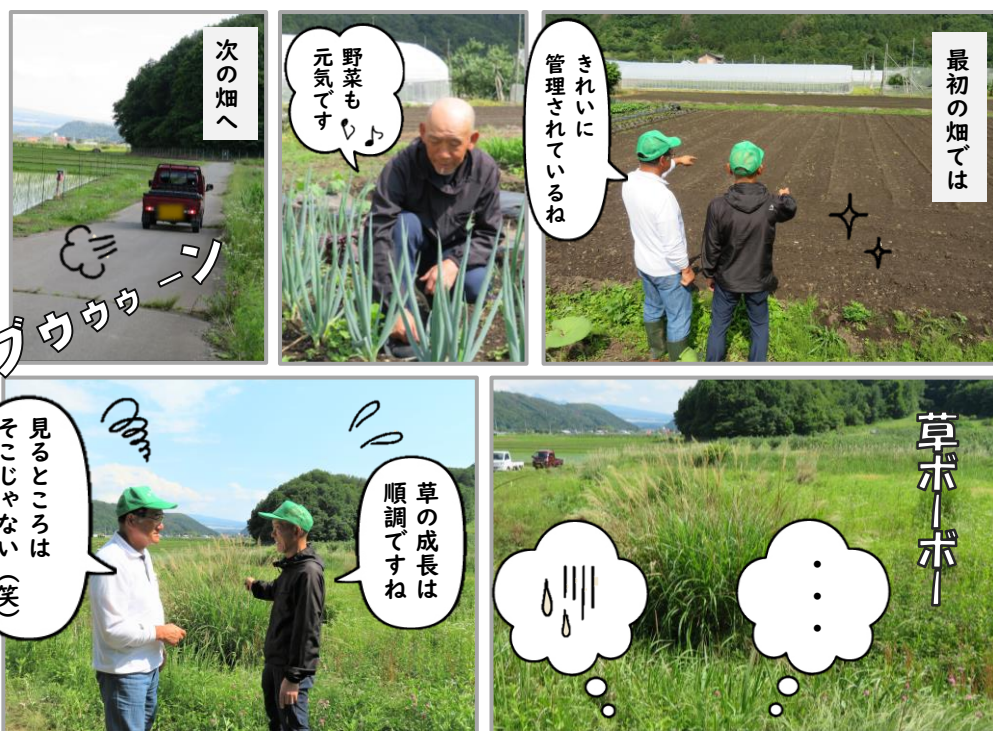




農業委員会は8月から9月にかけて、農地の利用状況や管理状況を確認する農地パトロールを行います。長期間耕作されていない遊休農地が増えると、雑草の繁茂や病害虫の発生など周辺地域に悪影響を及ぼします。池田地区の農業委員の阿部喜一郎さんと農地利用最適化推進委員の高橋昌一さんが、農地パトロールを漫画で紹介します。

長期間耕作されていない放棄地も多く、農地として再び活用できるかどうかも確認しています。漫画を通して、農地を守る活動を身近に感じていただければ幸いです。

高橋 昌一さん -発知新田町-

耕作放棄地の増加に加え、獣害の痕跡も多く見られます。農地が荒れる前に状況を把握し、適切な管理につなげることが大切です。漫画の撮影は楽しく参加できました。

阿部 喜一郎さん -中発知町-

春山明子の野生動物被害対策コラム⑩

野生動物の農業被害の防除手法
侵入防止柵の3つのポイント



(株)群馬野生動物事務所
春山 明子さん

維持管理が
決め手です

2 設備の老朽化

沼田市において、夏は野生動物による農作物被害が最も多い時期です。春の植物が成長すると、動物にとって硬く食べづらく、クリやドングリなど秋の堅果類が実るまでは、山に餌が少なくなるからです。一方、里では高糖度のブルーベリーやプラムなどの果樹、トウモロコシといった野菜ができるため、特にクマやイノシシなどの大型野生動物による農業被害が増加します。

3 ワイヤーマッシュ柵や金網フェンスの点検

これらの被害を防ぐためには、**侵入防止柵が有効**です。市は電気柵やフェンスなどの設置費用を補助していますが、侵入防止柵の最大の課題は、設置後の維持管理ともいわれます。特に、次の3つが課題として多く取り上げられます。

1 低い段数の電気柵

初期に導入された2〜3段の電気柵は、大型獣が簡単に越えて侵入してしまうため、効果が低くなっています。一般的に推奨されている5〜6段の電気柵に変更する必要があります。

野生動物は、一度作物を食べるとそれを餌と認識して繰り返し訪れます。餌付けされると檻の餌には見向きもせず、捕獲が困難になります。日中も畑の近くに潜むようになり、人身事故の危険性も高まります。3つのポイントを実行し、被害を減らしましょう。

ぬまた農縁で田植え体験
田んぼで感じる農業の魅力



農業を通した交流体験「ぬまた農縁」が先月6日、岡谷町地内の水田で行われました。参加者8人は手植えに挑戦し、田植機の乗車を楽しみました。参加者は農業委員の指導のもと、苗を一本ずつ丁寧に植えていきました。泥に足を取られながらも声を掛け合い、作業を進めました。体験後はバーベキューで親睦を深めました。次回は10月に稲刈り体験を予定しています。

編集後記

コマ割り漫画では、農業委員さんたちにポーズをお願いしながら楽しく撮影する一方で、農地を守る活動の大切さも感じました。農業委員会の活動を身近に感じられるように、これからも親しみやすい紙面づくりに務めていきます。(尾身 薫)

農業委員トークリレー No.11

花づくりで安らぎ届けたい

星野 広之 さん
— 沼須町 —

花づくりを始めて45年になる星野さんは、スターチスなど4品目40種類を栽培しています。一番好きな花はトルコギキョウ。長野県上田市で見た姿が印象に残り、今でも特別な思いで栽培しています。「市場や花屋さんから評価を受けたときがーと笑顔で

を見せる星野さん。約1畝の積雪でハウスが倒壊した苦労も経験しましたが、現在は雪に強いハウスで栽培を続けています。農業委員としては農地価格や農地転用について学び、「利南地区は後継者が多く、地域農業の将来が楽しみ」と期待します。



出荷を待つトルコギキョウ。星野さんが45年培った花作りの技術が美しい花を咲かせている